

東嶺山だより

令和3年5月号 通刊160号

355-0044 東松山市正代755-1 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email:semyojuji@yahoo.co.jp HP:tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

令和3年度世明寿寺護持会総会報告

新型コロナウイルス感染が心配される折ですが、3密に十分配慮した上で、4月18日(日)午前10時から、世明寿寺護持会総会が開催されました。概要を報告いたします。

- ①令和2年度事業報告 承認
- ②令和2年度決算報告 収入 717,524円 支出 683,513円 残金 34,011円
特別積立金の決算報告 支出 0円 現在残高 309,146円 承認

③護持会費の増額について

<理由>

借主転居による事業収入(地代49625円)の減収と宗費の増額(曹洞宗本庁による10年毎の宗費の全国的な見直しにより、令和2年度から21390円増額されている)のため、従来通りの事業推進費の為には合計710,15円不足となる。

支出で減額可能な項目を検討したが、「事務費・営繕費(固定資産税・建物共済保険)・境内整備費・光熱費」はほとんど必要経費であり、減額は難しい。「会議費・総会費・荘厳費」は例年最低限で運営しており、大幅な減額は困難。「交際慶弔費」は例年4~5万を計上しているが、支出が全くなかったり10万円を超える年があったり読めないが、今後も平均的に4~5万を計上したい。

従来通り護持運営のための不足分を補充するために、年額1檀家1000円を増額し、79檀家(半檀家1は500円)で合計78,500円の増収とする。

- ④令和3年度事業計画(案) 承認 詳細は今後の「東嶺山だより」で連絡します。
- ⑤令和3年度予算(案) 収入・支出 804,911円 承認
- ⑥連絡事項

・護持会費等の納入について **9,000円** (護持会費 7,000円+特別積立金 2000円)

納入方法(役員集金以外の檀家は、下記①~③のいずれかの方法で納入してください)

- ①現金納入(寺へ持参) *事前に連絡の上おいでください。
- ②現金書留で送金 355-0044 東松山市正代778-3 林 龍生 宛
- ③口座振込
 - ア JA埼玉中央高坂支店
口座名 「宗教法人 世明寿寺 代表役員 林 龍生」 口座番号(普通) 2022878
 - イ ゆうちょ銀行
*ゆうちょ銀行同士の場合
口座名 「世明壽寺護持会」 口座記号 10360 口座番号(普通) 22224391
*他の金融機関からゆうちょ銀行へ送金する場合
店名 0三八(ゼロサンハチ) 店番 038 口座名「世明壽寺護持会」
口座番号 (普通) 2222439

・納入期限 5月末日

■「袖(そで)すり合うも多生(たしょう)の縁(えん)」

「多生」とは、果てしない過去世から、何生にもわたって、という意味です。「縁」とは、つながっているということです。電車やバスの中で見知らぬ乗客と、肩がふれあったりすることがあると思います。肩が触れ合うだけでも、果てしない過去世、生まれ変わりを繰り返してきたいろいろな生の中で、何度もつながりあった人なのだとということです。

地球上には何十億の人々がいますが、その人とすれ違うことさえもないでしょう。まったく縁のないまま、この世から去ってしまう人ばかりです。

そう考えると、同じ電車やバスに乗り、肩と肩が触れ合う人とは、何とつながりの深い人なのでしょう。

肩が触れ合うだけでも、過去世からの縁があつてのことなのですから、友達になる人、夫婦になる人、家族となる人は、よほどの深い因縁があつてのことなのです。

自分の身の回りで、たとえば職場で、自分と合わないなと思う人がいても、同じ職場で一緒に仕事をしているということは、ものすごく深い深い縁があつてのことなのです。

ですから、相性が悪いとかで片付けるのではなく、せっかく深い縁があつて出会った人なのですから、少し仲良くなる努力をしてみると良いと思います。

たとえば、優しいまなざしや笑顔で接する。感謝やいたわりの言葉をかける。ちょっとしたことですが、実行し続けることで、より良い関係が育まれるでしょう。



■第八教区特派布教説法会・教区護持会について

昨年度、坂戸市永源寺にて開催予定だった特派布教会・教区護持会は、現時点では、例年6月に開催していましたが、今年度は10月に、同じ坂戸市永源寺で実施する予定です。

■将来、お墓の継承者がいない！？

そんな時は「永代供養」も一つの方法です

様々な事情で、お墓を守っていくことができないという方がおります。例えば、お子さんやその他の継承者がいなかったり、遠方に住んでいて、墓守りやお墓参りが思うようにできないという方々です。

「永代供養」を行っている寺では、一般的に「納骨堂」や「合祀の永代供養墓」というものを作って、その中に「永代供養の仏様」を一定期間(3年くらい)合祀し、期間を超えると、壺を開けて土に返すという場合が多いと思いますが、当山世明寿寺では、「合祀の永代供養墓」という方法はとらず、原則一体毎の永代供養墓を建立していますので、一定期間が過ぎても壺から明けて土に返すことはありません。壺から開けて土に返すのは、33回忌を過ぎてから、ということで一般のお墓に安置してある遺骨に対する方法と同じになります。なお、永代供養は、檀家以外の方の申込みもお受けしています。詳しく知りたい方は、是非ご相談下さい。

■今月ことば 「一病息災(いちびょうそくさい)」

私たちは、病気になると、発病以前の状態に戻ることを望みますが、それは不可能です。健康な人間でも、一日一日体力は衰えます。従前の体に戻ることは不可能です。不可能なことを望むから焦りが生じます。病気になったら、その病気と仲良くして、ちょっぴり病状を軽くしたいという程度に考えた方が良さそうです。そして、完璧な健康状態だと自分の体を大切にするという意識が薄くなりがちです。むしろ、「一病」と仲良くしながら常に体に良いことを意識して実行すると「息災」に過ごせるということです。

■今月の予定

- 寺子屋 1, 15, 22, 29日
- 坐禅会・写経会 9, 23日

八重桜と鐘楼

